

追悼 いいだもも いいだ、 ここがロドスだ

小中陽太郎 作家



埴谷雄高は、「斥候よ 夜はなお長きや」(61) 発表直後、この長大な長編をすばやく読破し、全く的確に著者の全作品のありようを見抜いた。

「よく調べられているその(登場人物の)意見が広く調べられたが故にとめどなくのべられているという段階を超えて、内発するところの一種のとめどない饒舌まで発達する事態がこのような作者に起れば、全く新しい大きさを持った作品を吾国の文学にも期待し得るようになるのである」(初出「日本読書新聞」昭和36年9月4日)

わたしの奉職する声別の廃校の小学校にある研究室に収納したために、都立中央図書館からとりよせた日比谷中央図書館の蔵書印のある版を世田谷・尾山台の区民図書館(館外帯出禁止)に來て手にすると、そこから歩いて数分の所に居住する安岡章太郎が「跋」を書いていて、開巻劈頭、老人党党首として最後を全うした豊類、オールバックの白皙の青年像が飛び込んできた。

さて本書は、周知のようにゾルゲ事件をモデルにしてその周囲の人物像の心象風景を描いているとされるが、今読むとゾルゲや尾崎そのものを描くと云うより、たとえば語り手たる白線帽で、乳房コンプレックスの番場健二の展開する「悪霊論」「魯迅論」集といったほうが実情に近い。それより銀座にあったというドイツバー「ラインゴールド」に去來する人物は影絵のように美しいとおうか。1932年・ベルリンのホテルを舞台に、失意のパレリーナ、グレタ・ガルボと宝石泥棒の男爵(ジョン・パリモア)ら五人の

男女のたった一日を描いた『グランド・ホテル』は、のち「グランドホテル形式」という映画用語の語源となった著作だが、「斥候よ」は、その構成において、その形式においてまた主人公が止めどなく語ることに於いて、その影響下にあるとは、さすがの「闇の中の思想」（映画館のことです）「埴谷全集第5巻」でも気がつくめえ。

このついでにコラム作者として言わせてもらえば、まずヘルツェンがおくったツアアの族をも掃滅しからり一人娘とやるときにや……の春歌までさながら昭和生愛唱歌集である。これは作中、番場の真の令嬢たちが、きらいなものを列挙する遊びで「キング（講談社）美談集」と書く教養と一致しないね。

この韜晦癖は、このあと、小田にすずめられて読んだ「モダン日本の原思想」（63）に於いて顕著である。今遠く岩別の我が書庫から飛んできた水色の表紙を練り、常総同盟布川支部からの手紙「原点はどこに存在するか」を練ると、横瀬夜雨の詩が出てくる。

お才あれ見よ
越後の雁が

とんできたにとまたたまされて

そして、この雁は実は谷川雁である。

おれたちの水素は母の血にかけて
きのこ雲とはなさぬ（ナンたる先見の明！）

片輪者よ みなしごよ 売笑婦よ
おれたちはそのためにうまれた／そのために死ぬのだ（谷川雁）

これにたいしていいだは、断固「労働者よ農民よ」とよびかけるのが正しいというのだ。いまのフクシマをみると、どちらも正ししー

1965年8月14日、ベ平連の徹夜・ティーチン第二部の冒頭、司会の無着成恭が「天皇の命令でまた戦争するかも含めて自由にかたりあいましよう」

といった途端に弁士中止。翌朝そろって抗議に行つたわたしたちに、編成課長ばばこいうちは「でも放送の司会者として、あの放送は公平を欠く」といつたときである。いいだが書いている。

「元NHKの小中さんは間髪を入れず、でも無着さんは放送局のアナウンサーではない、フリーの出演者だといったのです」。NHKにいたことで、ほめられたただ一つの例だ。ばばはそののち辞表を出してフリーになった。

次、いいだは、戦後の共産党から、最晩年の老人党にいたるまで、徹底した党マニアとされているが、わたしはそれを疑っている。

ベ平連最大の危機は、1969年に小田が「文藝」に発表した「冷え物」が差別小説だとして突然、批判されたことだ、といわれている。関西から学生がやってきて批判し、ベ平連内部の青年たちが真剣に悩んだ。これが時期的に、いいだもたちが共産党を結成ころとあって、ベ平連フラクが造反したといわれるが、かれらはむしろ何とかこの問題を自分たちの内面化としようとしたので、小田批判はなかった。わたしは、当時「現代の眼」で小説「ふあつく」連載中でそのなかで書き、鶴見俊輔から「小説によって運動の硬直化をすくつた希有な作品」とほめられたんだか、ひやかされたのかわからない評を得た。私としては来日したジェーン・フォンダを、京都ベ平連がイラスト入りガリ版で「ジェーンのハダカは平和のシンボル」と書き。それに對し、フォンダが「ハダカで平和はこない」とかみつつき、ときならぬ徹夜討論会となった事がテーマだった、タイトルの「ふあつく」は朝日が広告拒否した意味と違つて、ジェーンの「ファック・ジ・アーミー」からとつたのに。わたしは、フォンダのジーンズの脚をみながら、どうしても「バーバレフ」のプラスチックの宇宙服からこぼれ落ちた乳房を思わずにはいられなかった。わたしとしては納得できないのは、そのあとジェーンは、いいだもを凌ぐ浩瀚な自伝を書いたが（2006年）上下巻併せて1000ページほどの翼のマリンに向かつて体をはってジェーンを守つた話も出てきやしない、その代わり夫テッド・ターナーの浮気ばかり（ほくはのちかれとあった）。ハダカで平和が来るか来ないか、わたしにはわからない、すくなくともジェーンのハダカで平和はこないさ。

「ふあつく」はジェーンがかえればそれでおわりだが、「冷え物」のほうは幾

社会評論

2011年 夏号 (通巻166号) 定価1,500円+税

特集1 ▲トキメント▼ キューバ共産党(PCC) 第八回大会

キューバ人民は苦境を乗り越え前進する 本誌編集部
 PCC第六回大会にたいする報告 マルカストロ
 PCC中央委員会から世界人民にあてたアピール
 フィデルの考察 深刻な食糧危機 マデルカストロ

平和のうちに生存する権利を！
原邦一 沖繩と改憲阻止 シーナスタ 山口正紀
 フクシマ、最後の警告 原典研究 大高雅博
 世界恐慌と大衆ストライキ 世界経済研究 小野利明
 日米安保はいらない 日本国憲法を！
第三次学術調査団 憲法改正訴訟弁護団長 池宮城紀夫

特集2 『魯迅文学を読む』 竹内好『魯迅』の批判的検証をめぐって

運動としての創造・批評活動 『筆乙』批評家 鎌田哲哉
 国防文学論争における魯迅の統一戦線論文を評論家 湯地朝雄
 直言の力をわれらがものに 浅川史著『魯迅文学を読む』 二松学舎大学教員 山口直孝

憲法 震災問題と改憲の危機 岩瀬勲研究 新田 進
 教育 『日の丸・君が代』 最高裁判決の問題点 予野辰松を 永井栄俊
 美術 3・11以後、美術界は 美術評論家 日夏露彦

連載 拉致問題で進む日本の民主主義 ⑩ 琉球文学名譽教授 高嶋伸欣
 他へ『巻頭エッセイ』へ『労働者通信』へ『読書ノート』へ『連載』へ『文庫発掘』へ『映画再見』など内容多形

発行：スペース伽耶
 東京都文京区本郷3-29-10 飯島ビル2F
 電話03-5802-3805 / FAX03-5802-3806

晩も議論した。それが巷間、共産党のフラク活動だ、とされた。火付け役の座付き作者として、彼らの名譽のためにいつておくが、いいだも武藤一羊も栗原幸夫もけつして、ベ平連を壊す気持ちも手だてもなかった。あつたとしたら笠井潔たちにだろうが、かれらは文学的すぎた。いいだにそれを押さえるだけの指導力はなかったという事は、いいだの名譽か不名譽かわからない。すくなくとも彼らはベ平連を愛し、その力を実感し、それを守ろうとしていた。そうでなければ73年に、ベトナムで仮調印が行われ、ベ平連解散論がうまれたとき、かれらがあんなに熱心に存続を主張するはずはない。やめようと云つたのは京都の鶴見俊輔であり、わたしだった。

俊輔は、運動の情性化をおそれ、わたしはベトナム戦争は終わるのだから、反対もやめようといったのだ。武藤が激しい口調で難詰した。「そんなにやめなければじぶんだけやめる」、ああ、どうしてそうしなかったのだろう。それは、わたしが、いいだや武藤を、小田とおなじくらい好きだったからなのに。いいだもが死んだとき、玲子夫人は、50年代にいいだが書いた一篇の詩をそつと棺におさめた。

ゆうぐれ 野のはてでまばたきするのは……

白い吐息のように走り去るのは……だれ？
 遠いお母さんのすみれ色？ 夕咲きのフロラ？
 それとも おきわすられた黙りがちのかれ？

もう、いいだもを、饒舌だなどとはいわせなぞ。
 旬日を経ずして、当時のベ平連の若者の出版記念会があつた。黒川創に、いいだのことを書く、といつたら、「あそこに孫がいる」といつた。仰天して飛んでいつて、小柄な寡黙な青年に聞いた。

「おじいさんで、どんなひと？」 飯田朔はゆかいな話を教えてくれた。
 「いつもおばあさんに怒られていました」
 「それはまたどうして？」
 その答え。

「いつも、食事の時間になつてもテーブルの上にゲラを広げて赤をいれてたから」
 そうだ、マルクスなら、こころはげましたろう。
 「いいだ、ここが、ロドスだ、ここで書けー」
 2011年6月徳ぶ会の日に。